

1年

1

竹取物語①
仮名遣い・古語

名前

年

組

番

/22

竹取物語

＊次の①～⑦を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。また、①～⑦の語句の意味を、下から選びなさい。(2点×11)

今は昔、竹取の翁といふものありけり。
野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。
名をば、さぬきのみやつことなむいひける。
その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。
あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。
それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてみたり。

- ① いふ ()
② よろづ ()
③ 使ひけり ()
④ なむ ()
⑤ いひける ()
⑥ うつくしうて ()
⑦ めたり ()

- ① あやしがりて ()
② いと ()
③ うつくしうて ()
④ めたり ()
- 不思議に思つて
不審に思つて
こわくなつて
たいそう
あまり
少し
輝くばかりに美しく
かわいらしい様子で
すました様子で
眠っている
立っている
座っている

1年

4

矛盾
漢文の読み方ほか

名前

年

組

番

/14

矛盾

＊次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(2点×7)

楚人に盾と矛とを鬻ぐ者あり。
これをほめていはく、「わが盾の堅きこと、よく陷すものなきなり。」と。
またその矛をほめていはく、「わが矛の利なること、物において陷さざるなきなり。」と。
ある人いはく、「子の矛をもつて、子の盾を陷さばいかん。」と。
その人応ふることあたはざるなり。

1 この文章から生まれた故事成語「矛盾」の意味を次から選びなさい。

- ア よけいな付け足し。 イ 古い習慣を守り、進歩がないこと。
ウ 大差がないこと。 エ 物事のつじつまが合わないこと。

2 次の訓読文を書き下し文にした部分を、文章の中から書きぬきなさい。

或曰「以子之矛、陷子之盾、何如。」

3 次の例に従つて、読む順序の番号を()に書きなさい。(完全)

(例) 悪事行千里。 悪事は千里を行く。

① 読書。 書を読む。

② 不覚。 暁。 暁を覚えず。

③ 知天命。 天命を知る。

④ 田中有株。 田中に株有り。

⑤ 吾説論語。 吾論語を読む。

